皆生温泉と玉造温泉の現状とこれから

蓬莱 梨乃

Ⅰ はじめに
Ⅱ 皆生温泉と玉造温泉について
1）皆生温泉
2）玉造温泉
Ⅲ 観光客の動向
Ⅳ 温泉街の現状
1）皆生温泉の場合
2）玉造温泉の場合
Ⅴ 温泉街の活性化にむけての対策
1）皆生温泉の場合
2）玉造温泉の場合
Ⅵ おわりに

Ⅰ はじめに

2001（平成13）年の夏に，地理学総合実験実習の一環として鳥取県西部および島根県東部に調査に行くことになった。筆者はその実習のテーマとして「温泉」を取り上げることにした。温泉地の多い山陰ならではのテーマであると思われたし，また筆者が非常に温泉が好きであるというのも，このテーマを選んだ理由である。

かつては，娯楽といえば温泉を挙げることができた。しかし，現在は温泉から観光客の足が遠のいているようである。というのも，生活水準の向上や余暇時間の増大等による生活環境の変化や，日本各地にテーマパークやアミューズメント施設が存在するようになったためではないだろうか。その状況下で観光客を呼び寄せるために温泉街ではどのような取り組みが行われているのか，またどのような計画がされているのかを，皆生温泉と玉造温泉を中心に調べてみた。ここではそれらについて考察していきたいと思う。

Ⅱ 皆生温泉と玉造温泉について

1）皆生温泉

皆生温泉は鳥取県西部の米子市，三保湾に面した弓ヶ浜半島の東端にある山陰有数の温泉である。1900（明治22）年，地元の漁師が皆生海岸の浅瀬に湧き出す熱湯を発見したのが始まりである。今では「米子の奥座敷」，「山陰の熱海」などと呼ばれ，設備の整った旅館やホテルが立ち並ぶ開放的な歓楽地となっている。のどかな温泉情緒の落ち着きに対して，白砂青松という日本独特の美しい海岸風景を残す海辺には，開放的で明るいマリンリゾートの空気があふれ，環境省の「日本の水浴場88選」にも選ばれている。また日本でのトライアスロンの発祥の地でもあり，毎年7月下旬に「全日本トライアスロン皆生大会」が開催されている。

名前の由来は「その昔，出雲の稲佐の浜から泡となって流れた魂たちが海岸に流れ着き，新しい身体と心が蘇生（よみがえる＝黄泉の国から帰る）されて皆，生まれ変わった」ということから，当地

を「皆生」と呼ぶようになったという言い伝えも残っている。よって皆生温泉は長寿にあやかる温泉とされている。

皆生温泉は，健康増進・皮膚病・婦人病・胃痛・神経痛などに効能がある。泉質は70～80℃の含塩化土類食塩泉で，端的に言えば海の恵みの「塩の温泉」である。まさに，古くからヨーロッパで行われているタラソテラピーそのものである。海の資源がもたらす快適性を利用して心身を癒す，美容法やストレス・リハビリの療法は日本でも近年，女性の間で注目されているようであり，皆生温泉も女性の注目を集めている。

秀峰大山，美保関，隠岐島を望む景勝地である皆生温泉は，「日本の朝日 100 選」，「日本の渚 100 選」，「日本の白砂青松 100 選」，「都市景観 100 選」にも選ばれており，見所多様である。また拠点がよい為，皆生を拠点にして城下町の風情を残す米子市観光はもちろんのこと，境港市，美保関，大根島，国立公園大山，国立公園隠岐，そして松江や出雲までも足を伸ばすことができる。

皆生温泉のうりの 1 つに味覚が挙げられる。冬の味覚の象徴として知られる「松葉ガニ」，粒の大きさが際立つ夏の「岩ガキ」など，四季を通して旬のおいしさにあふれている。港がある境港市からは，産地直送の新鮮で豊富な魚介類，大山山麓からは，その豊かな自然に育てられた和牛，山菜など自然豊かな山陰ならではの味覚を味わえる。また，2000（平成 12）年の皆生温泉開湯 100 周年を記念して「皆生鉄人鍋」というメニューが創作されている。健康と味を追求した鍋で，レシピは各旅館で趣向を凝らしている。名前の由来は，皆生温泉がトライアスロン（別名：鉄人レース）の国内発祥の地であり，鉄人鍋の赤色のだし汁が鉄人たちの「赤く燃える情熱の色」と合うこと，また料理を極めた人を「料理の鉄人」と称することによるようである。

2）玉造温泉

玉造温泉は島根県の県都松江市の西南約 8km，三方を山に囲まれた全国でも有数の温泉地であり，四季を通じて，県内外から大勢の観光客が訪れている。玉造温泉の東部にある花仙山を中心とする丘陵から，かつては良質の赤めのう，青めのうが産出し，古代「玉作りの里」としても知られている。この玉造温泉は，『出雲風土記』にも登場する古い歴史を持ち，今から約 1600 年前に湧出したという古記録もある。温泉の発見は大国主命とともに国造りをした「少彦名命（すくなひこなのみこと）」といわれている。

現在，島根県東部（旧出雲国）には，多数の温泉が存在しているが，奈良時代の『出雲国風土記』では，温泉の記事が記載されているのは 3 ヶ所のみである。今の海潮温泉と湯村温泉と最後の一つはもちろん玉造温泉である。玉造温泉については前の 2 つと比較すると温泉の記事が長文で詳しく書かれている。「即ち川の邊に湯を出す。出湯の在る所は，海陸を兼ねたり。仍りて男も女も，老いたるも少きも，或るは道路を駱驛ひ，或るは海中を洲に沿ひ，日に集ひて市を成し，繽紛燕楽ぶ。一たび濯げば形容端正しく，再び浴すれば，萬病悉に除こる。古より今に至るまで，験を得ずといふことなし。故，俗人，神湯と曰ふなり」。その当時から玉造温泉は，出雲で一番の温泉だったことが明らかである。「川辺の出湯」と呼ばれている場所は，玉造湯薬師堂前の玉湯川の河原だとされ，太古の昔から自然に湧いていたと考えられている。これが玉造温泉の最も古い姿である。平安時代には，清少納言が『枕

草子』にしたためたほど，その名は京の都へと鳴り響いたようである。『風土記』の時代には，この河原に露天風呂が作られ，たくさんの人々で賑わったようである。江戸時代になると川岸の陸地に泉源（元湯）が掘られ，川辺の出湯は石や粘土で塞がれた。これは元湯と川辺の出湯は地下でつながっており，元湯の湧出量を増やそうとした為である。これが現在の玉造温泉の姿となっている。

名前の由来は，古代，特産物のメノウで勾玉を作る玉作部の里だったことからである。玉造という名は，神代の昔に櫛明玉命がここで勾玉・管玉などの宝玉をつくったという伝説に由来し，三種の神器のひとつ八坂瓊勾玉は，櫛明玉命がここで磨き上げたとされている。宍道湖に注ぐ玉湯川の両岸には，20件あまりの国内指折りの旅館やホテルが軒を連ね，春には桜の名所として賑わう。また，新しいシンボル「玉造温泉ゆ～ゆ」はユニークな施設として人気を集めている。

泉質は40～72℃の含食塩石膏芒硝泉（Na・Ca・SO・Cl泉）で，神経痛，リュウマチ，肝臓病，胃腸病，皮膚病，婦人病などに効能があり，飲めば下剤となり，肝臓疾患や胆石病にも効く。

皆生温泉と同様に，味覚が玉造温泉のうりの1つとしてあげられる。宍道湖七珍，出雲そば，松葉ガニなどが名物料理で，10月～2月頃まで「松葉ガニ」が楽しめる。海水と淡水が混じる宍道湖は，「宍道湖七珍」と呼ばれる魚介類の宝庫であり，独自の調理法も生まれ，スズキを和紙に包んで蒸し焼きにする「奉書焼」やこいの「糸造り」など，この地方独特の料理として全国に広く知られている。初春のシラウオ，夏のシジミ・ウナギ，秋のモロゲエビ，冬のスズキ・ワカサギ・コイを中でも宍道湖七珍と呼んでおり，食事にはかかせない味覚となっている。

玉造温泉は観光拠点として便利な所に位置し，松江や出雲大社へ寄る観光客の宿となることが大部分である。また，「玉造温泉ゆ～ゆ」で毎晩行われる「安来節」や1ヶ月間におよぶ夏まつりも，玉造温泉のうりの1つであると考えられる。「安来節」や「夏まつり」についてはVの「温泉街の活性化にむけての対策」で詳しく述べていきたいと思う。

Ⅲ 観光客の動向

皆生温泉では，1997（平成9）年が観光客の入り込みのピークであったようである。その理由としては，1997（平成9）年に境港で開催された「夢みなと博覧会」で予想の倍以上の198万人が動員されたことが挙げられる。しかしその後は観光客数は減少していき，きわめつけに2000（平成12）年9月の鳥取県西部地震が観光客減少へのさらなるきっかけとなった。また2000（平成12）年3月から9月まで兵庫県の淡路島で開催された「淡路花博」の影響も考えられる（第1表）。県内最大の温泉地である皆生温泉の入湯客数は50万人で，昨年と比較すると10%減少している。

皆生温泉に訪れる客の多くは，京阪神・中国・四国地方から来ている。西は山口県，東は滋賀県まで集客圏は広がる。

第1表　2000年鳥取県地域別観光入り込み客数

広域エリア名	入り込み客数（千人）	前年比（%）
鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺	1,224	109.9
浦富海岸・祝い温泉周辺	441	90.6
八頭	224	88.4
とっとり梨の花温泉郷周辺	1,624	96.7
東伯耆周辺	785	128.7
米子・皆生温泉周辺	1,457	97.8
境港周辺	1,451	87.5
大山周辺	1,241	77.5
奥日野周辺	131	102.3
計	8,598	95.1

出典）鳥取県商工労働部観光課資料より作成。

1993（平成 5）年の米子道の開通により，アクセスが良くなったためであると考えられる。多くの京阪神からの客だけでなく，それまで泊りがけで来るような地域からの客も日帰りになってしまったようである。また，九州からの客は大山の方にスキーを目的として来ることが多かったが，広島に人工のスキー場が出来たためにわざわざ大山まで足をのばす必要がなくなってしまった。

以前は「山陰 3 名湯」として，皆生温泉，三朝温泉，玉造温泉の 3 ヶ所の温泉で売り出していた。しかし，鳥取県中部に温泉群ができたため，三朝温泉はそれらの温泉の宣伝に参加しなければならなくなり，鳥取県中部の温泉群に加わるようになった。その結果山陰 3 名湯として売り出すことができなくなり，客は減少した（第 2 表）。

第 2 表　鳥取県における観光入込客数（1987 年～1999 年）

（単位：人）

温泉地名	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
岩井温泉	114,550	109,900	116,000	118,100	119,500	122,000	118,200	115,700	109,300	100,700	107,000	90,308	39,362
鳥取温泉	394,600	420,500	686,900	417,900	423,400	415,500	408,000	435,200	481,500	494,700	450,800	445,390	66,066
吉岡温泉	414,500	372,600	407,300	384,900	388,800	371,800	350,600	346,100	289,000	265,900	265,100	223,744	56,069
浜村温泉	373,900	343,000	364,100	360,300	377,600	420,800	385,700	401,900	338,400	324,900	271,300	245,798	52,982
鹿野温泉	67,800	62,100	66,100	65,500	67,500	70,900	72,700	78,000	83,400	91,700	96,600	91,094	32,430
東郷温泉	262,800	269,200	287,600	295,200	295,500	271,600	252,800	248,000	264,200	249,900	237,200	217,987	38,604
はわい温泉	431,000	417,200	431,500	450,000	457,700	424,500	417,100	502,500	540,300	574,400	549,100	440,378	183,188
三朝温泉	1,314,200	1,342,800	1,346,800	1,377,500	1,401,900	1,339,600	1,206,100	1,335,300	1,515,600	1,776,100	1,825,800	1,721 729	429,084
関金温泉	403,300	363,600	362,000	360,400	371,900	317,500	312,100	309,200	285,400	303,200	381,500	325,801	28,046
皆生温泉	1,361,500	1,373,900	1,394,500	1,442,100	1,482,100	1,360,700	1,437,200	1,426,400	1,514,900	1,501,300	1,776,700	1,421,360	1,475,320
計	5,138,100	5,074,800	5,462,800	5,271,900	5,385,900	5,114,900	4,960,500	5,198,300	5,422,000	5,682,300	5,961,100	1,549,442	1,487,143

注）1998年に算出方法を変更。1999年から日本観光協会統一基準により算出。

出典）米子市観光観光課資料より作成。

昔は団体で来て，宴会をしてワイワイと騒ぐというのが定番であったが，現在は団体客よりもグループ・個人客が明らかに多くなっている。また，客層は幅広いが，日本における高齢化のためかお年寄りが多い。旅館やホテルもそれまでの団体客中心の経営から個人客向けの経営へと方針を変えていっている。それについては，Ｖの「温泉街の活性化にむけての対策」で触れていきたいと思う。

観光客の大半はバス・車で訪れる。JR を利用するのはビジネスで米子へ来る人たちぐらいである。これは，アクセスがよいことで，電車等の交通機関を利用するよりも短時間で来ることができるためである。また皆生温泉を拠点にしていろいろな方面へ足をのばすのにも，バスや車等の方が便利であるからである。

最近多い日帰りのパターンは，夏の場合は蒜山・海・旅館→旅館で昼食→温泉→帰宅というものである。観光客が多くなるのはやはり海水浴のできる夏，紅葉のきれいな秋，カニのおいしい冬である。皆生の海は，遠浅で海水浴には最適であるが，最近は少しずつ海水浴にくる客は減少しているようである。その理由として「現在はわざわざ海に行かなくても，プールで海の感覚が味わえるようになってきているためではないか」と，米子市観光協会の野島氏は考えている。7 月下旬に行われ，全国から約 700 名の選手が集まる「全日本トライアスロン皆生大会」は，皆生温泉の一大イベントの一つではあるが，大会の時は選手が泊まるため，旅館やホテルの一般宿泊者は減少するようである。

一方，玉造温泉への入り込み客数は比較的安定している。しかし，1998（平成 10）年は兵庫県で明石海峡大橋が開通し，つづく 1999（平成 11）年には同じく兵庫県の淡路島で「淡路花博」が開催されたため，少し客数は低下した。2000（平成 12）年 10 月に発生した，鳥取県西部地震による影響はあまりなく，1999（平成 11）年よりも客数は上昇している。（第 3 表）。

第 3 表　玉造温泉宿泊者及び入込客数の推移

（単位：人）

年	1986年	1987年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
宿泊者数	693,432	683,673	739,695	768,201	771,227	743,486	812,041	720,814	677,087	732,073	809,899	683,619	689,903	704,103
入込客数	748,904	738,371	798,878	829,662	832,925	802,959	876,999	778,472	731,251	815,347	998,455	866,301	880,973	899,023
主な要因		瀬戸大橋開通				米子道開通（年度末）			阪神大震災(1.17)	玉造温泉ゆ～ゆオープン(7.24)	山陰巡りみなと博開催	明石海峡大橋開通	ゆうあいピック開催 淡路花博開催	鳥取県西部地震発生(10.6)

注）1997年から調査方法が変更された。

出典）玉湯町役場観光・産業課資料より作成。

1965（昭和 40）年～1975（昭和 50）年，1985（昭和 60）年，1989（平成元）年は関西からの客が60%を占めており，関東からの客は 10%以下であった。しかし，現在は関西から訪れる客は 25%と低下している。その理由としては，関西からの客が飽きてきている，アクセスがよくなったためにさらに遠いところからの客が増えた，ということが考えられる。

客層は大変幅広いようである。特に家族連れ・少人数グループの客が多く，最近となっては団体旅行をするのは会社ぐらいとなってしまい，その数は低下している。ほとんどの客は電車・観光バス・車を使って玉造温泉を訪れている。

2001（平成 13）年 3 月に，淀江大山 IC～宍道 IC 間連結により山陰道が開通した。たしかに 4・5 月では客数は増えたが，その影響はまだわからない。しかし，山陰道の開通により玉造が全国高速道路網とつながったので，観光客にとって大変便利になることは間違いなく，今後に期待できそうである。交通機関の整備に伴う時間短縮により，中部からも客が来るようになった。一方近接する岡山・鳥取からの客は日帰りが多くなった。しかし，忘年会シーズンは夕方に出発して夜には到着できるという，新たなプランが考えられている。

関東からの客は 2 年前までは 3%であったが，現在は 4%に増えている。増加の理由は，2 年前から東京を中心とした首都圏一帯に向けて「山陰，出雲冬のあったかキャンペーン」を玉造温泉旅館組合や玉造温泉観光協会が行っているためである。往復の飛行機代＋玉造温泉宿泊（1 泊 2 食付）を通常なら約 12 万するところを，全日空等の協力により一人 2 万円台～で玉造に訪れることが出来るようになっているためである（第 4 表）。

第 4 表　2001 年 1～7 月地区別

玉造温泉宿泊者数

地区別	1～7月合計（人）	割合（%）
北海道・東北	9,405	2.76
東北・甲信越	55,845	16.38
中部・北陸	30,034	8.81
近畿	87,125	25.55
島根	54,011	15.84
中国	67,158	19.70
四国	16,025	4.70
九州・沖縄	19,422	5.70
海外	455	0.13
地区不明	1,475	0.43
合計	340,955	100.00

出典）玉造温泉旅館共同組合資料より作成。

1996（平成 8）年 7 月に大型スパ施設「玉造温泉ゆ～ゆ」が温泉街にでき，年間約 18 万人の客が利用している。「玉造温泉ゆ～ゆ」ができたことにより日帰り客は増加した。「玉造温泉ゆ～ゆ」は 70%が町外の客による利用であり，県内からの客による利用が 1 番多い時期は 11～12 月の忘年会のシーズンである（第 5 表）。

第５表　玉造温泉ゆ～ゆ入浴客数等集計（人）

（単位：人／%）

年月	一般	町民	宿泊者	団体	勤労者	その他(優待)	入浴客数月合計	前年対比(%)
1996年度計	92,172	30,381	5,670	1,201		616	130,040	
1997年度計	112,045	46,180	6,929	2,810		474	168,438	129.53
1998年4月	8,768	4,214	480	85		1,185	14,732	99.43
5月	10,662	4,017	459	172		169	15,479	106.39
6月	6,368	3,537	330	82		113	10,430	110.31
7月	7,868	3,688	419	124		141	12,240	103.24
8月	12,749	4,137	567	194		220	17,867	95.20
9月	10,826	3,426	581	156		1,508	16,497	104.46
10月	7,890	3,694	509	142		18	12,253	103.68
11月	9,326	3,847	587	147	89	17	14,013	99.50
12月	8,826	4,300	434	177	240	40	14,017	118.53
1999年1月	13,259	5,287	572	645	310	54	20,127	101.43
2月	8,435	4,066	487	158	215	47	13,408	104.38
3月	9,856	4,584	636	228	226	22	15,552	99.98
1998年度計	111,933	48,797	6,061	2,330	1,080	3,534	173,735	103.13
1999年4月	8,945	4,714	427	235	213	66	14,600	99.10
5月	12,701	4,398	480	339	223	142	18,283	118.11
6月	6,290	3,639	248	405	176	538	11,296	108.30
7月	7,858	4,095	552	211	260	143	13,119	107.18
8月	12,574	4,464	569	231	324	413	18,575	103.96
9月	7,840	4,150	387	184	299	1,347	14,207	105.26
10月	9,158	4,409	488	460	287	404	15,206	124.10
11月	8,296	4,259	451	278	267	136	13,687	97.67
12月	8,286	5,165	534	217	333	166	14,701	104.88
2000年1月	13,035	6,031	692	740	440	94	21,032	104.50
2月	9,208	5,360	633	294	487	92	16,074	119.88
3月	9,656	5,617	603	352	409	84	16,721	107.52
1999年度計	113,847	56,301	6,064	3,946	3,718	3,625	187,501	107.94
2000年4月	9,150	5,086	439	250	374	257	15,556	106.55
5月	11,607	5,082	435	250	331	293	17,998	98.44
6月	6,358	4,413	270	237	345	177	11,800	104.46
7月	7,631	4,193	349	180	344	188	12,885	98.22
8月	11,982	5,051	465	343	425	243	18,509	99.64
9月	7,903	4,082	541	208	364	157	13,255	93.30
10月	7,087	4,444	323	238	431	31	12,554	82.56
11月	9,039	4,965	464	348	492	64	15,372	112.31
12月	8,553	6,010	461	292	627	141	16,084	109.41
2001年1月	13,543	7,283	518	850	806	103	23,103	109.85
2月	9,594	6,211	407	309	680	189	17,390	108.19
3月	9,907	6,734	435	298	717	187	18,278	109.31
2000年度計	112,354	63,554	5,107	3,803	5,936	2,030	192,784	102.82
合計	542,351	245,213	29,831	14,070	10,734	10,279	852,478	

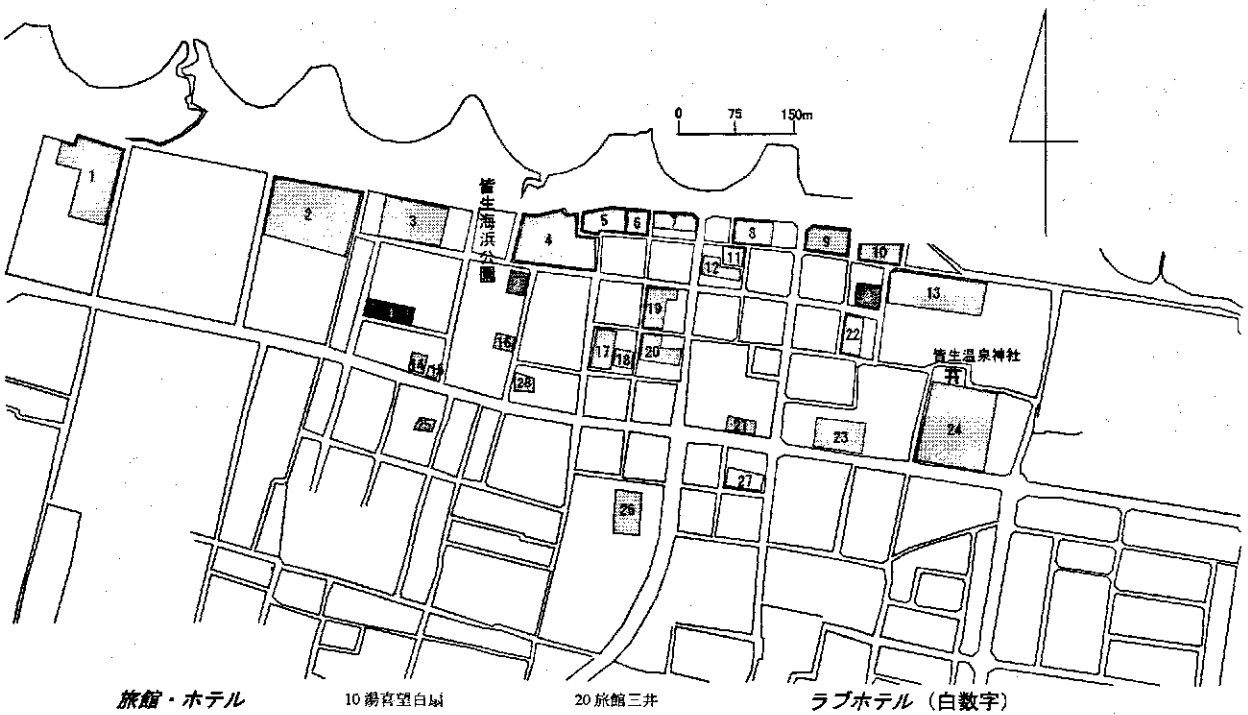
出典）玉造温泉旅館共同組合資料より作成。

Ⅳ 温泉街の現状

1）皆生温泉の場合

(a) 温泉街

皆生温泉だけにかぎらず，温泉街というのは旅館を中心として成り立っている（第 1 図）。よってやはり地元の人よりも観光客を第一とした街形成になってしまっている。また，「O～U ランド」のような多目的施設の利用者は多いが，だからといってそのような施設が増えていくとは限らない。というのも温泉街はやはり旅館がメインだからである。



旅館・ホテル

1 皆生・日帰り温泉オーシャン
2 皆生グランドホテル天水
3 華水亭
4 松風閣
5 ホテル清風荘
6 皆生鵜乃家
7 皆生シーサイドホテル
8 松月
9 なぎさ園
10 湯寛望白扇
11 割烹旅館夜見の島
12 海潮園
13 東光園
14 清光園
15 ホテル鎖雅
16 割烹旅館ふそう別館
17 暫別亭うらく荘
18 旅館浦島
19 松濤園
20 旅館三井
21 ビジネスホテル皆生温泉
22 皆生御苑別館芙蓉
23 山水楼生駒
24 ひさご家
25 岩崎館
26 おーゆランド
27 皆生つるや
28 旅館温泉閣　山田

ラブホテル（白数字）

1 ホテルエンゼル
2 れたす倶楽部
3 ホテルシルエット

第 1 図　皆生温泉街概観図

皆生温泉街は昔からお色気中心的な傾向がある。団体客が多かった頃はそういう場所，いわゆる「ピンク街」が不可欠となっていたためである（写真 1)。しかし，現在は宴会を目的とするような団体客は減少していて，グループ・個人客が多いため，そのような場は必要なくなってきている。だからそのような「ピンク街」はなくしてしまい，明るい温泉街をつくっていきたいと米子市観光協会は考えているのだが，権利上の問題などからそれらを除去するのは無理であるようだ。

住宅地図を片手に温泉街を歩き回ったところ，あまりの変貌ぶりに驚いた。旅館・ホテルが 2，3 件，閉館したままの廃屋になっていた（写真 2)。駐車場が大変多いのも気になった。その後に観光協会の方から伺った話によると，駐車場はもともと旅館やホテルが建っていた場所であり，閉館になっ

た後，駐車場になったらしい。これにより，以前は非常に多くの旅館やホテルが立ち並んでいたことが予想された。過去の住宅地図をさかのぼって見ていったところ，旅館やホテルの建ち変わりが非常に激しいことがわかった。

写真 1　「ピンク街」の様子

（細い路地に風俗店が密集している。）

写真 2　廃屋と化したホテル

（閉館して数年が経過しているが，そのまま放置されている。）

（b）施設・旅館・ホテル

皆生温泉にある多目的施設には，公衆浴場として利用されている「O～U ランド」と，「皆生・日帰り温泉　オーシャン」の 2 つが挙げられる。皆生温泉のほとんどの旅館では，温泉だけを利用することはできないようになっている。よって，日帰りで訪れる観光客にとってはこれらは不可欠な施設となっている。また，どちらの施設も中身が充実しているので，充分皆生温泉を満喫できるようになっている。

「O～U ランド」は，営業時間 10 時～23 時で，大人 310 円・中人 120 円・小人 60 円と低価格である。大浴場はもちろんのこと，バイブラバス・ジェットバス・ジェット寝湯・テーマ風呂・露天風呂など風呂の種類も豊富である。さらに手軽な別料金で，遠赤外線サウナ・あかすり・ミストサウナ・塩サウナ・マッサージ・家族風呂も利用でき，日頃の疲れもゆっくりととることができそうである。また，温泉施設の他に，ゲームコーナーやゆっくりくつろぎながら食事のできる所や，リーズナブルな料金で宿泊できるホテルも併設してある。鳥取県には「福祉のまちづくり整備基準適合証」というものがあり，条例の整備基準に適合している公共的施設には適合証を交付している。これは障害者や高齢者の方々が安全で快適に利用できる施設の目印である。「O～U ランド・O～U ホテル」はこの「福祉のまちづくり整備基準適合証」を受けている。余談ではあるが，「O～U ランド」を経営している皆生温泉観光株式会社は，アマチュアサッカー最高峰の日本フットボールリーグ（JFL）に参戦する「SC 鳥取」に年間 500 万円を出資している。地域発展への貢献や鳥取を全国へという期待がこめられているようである。

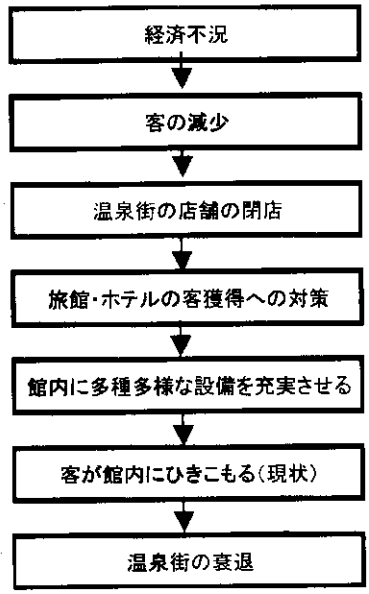
もう 1 つの多目的施設である，「皆生・日帰り温泉オーシャン」は，営業時間 11 時～23 時で，入館料大人 1,300 円，中人 800 円，小人 500 円と「O～U ランド」と比較すると高めであるが，公衆浴場と

は違ってゆったりと過ごせる。大露天風呂・サウナルーム・超音波ジェットバスが利用でき，最近では本場韓国式アカスリを始めたようである。またお食事処・レストラン・座敷・大小宴会場があり，会食や宴会にも便利である。さらに温泉施設が利用できるビジネスホテルやバッティングセンターも併設してある。

旅館やホテルは収容人数が 300 名と大規模なものから，収容人数が 40 名と小規模なものまでとさまざまで，約 20 件ある。料金も低めのところで 7,000 円～，高いところで 26,000 円と幅が広い。それぞれのホテルでいろいろな工夫を行い，客を魅了している。あるホテルでは，カップルや家族による利用の上昇を考慮にいれて，リニューアル時に各部屋に展望ジャグジー風呂などの温泉を設置した。またあるホテルでは，アジアン・バリリゾート風のリラクゼーション施設を設け，アロマテラピーやタラソテラピーを行っている。またあるホテルでは，ホテル内でさまざまなイベントを催し，またインターネットによるそのホテル独自の無料のクラブを作り，会員になると特典が受けることができるようになっている。

旅館・ホテルは温泉街の活性化よりも，各自の旅館に客を少しでも多く呼び込むことを中心に考えている。それぞれの旅館がライバルであるというような印象を受けた。

以上のことから温泉街を衰退へ導く悪循環の図式は次のようになるのではないかと考えられる（第 2 図）。



第 2 図　温泉街衰退の悪循環

2）玉造温泉の場合

(a) 温泉街

玉湯川の両岸に立ち並ぶ旅館。玉湯川には鯉が泳いでいる。玉造温泉は温泉情緒あふれる温泉地であり，皆生温泉のような風俗系の店はほとんどない（第 3 図）。温泉地の中心を流れる玉湯川や遊歩道は，1996（平成 8）年に「玉造温泉ゆ～ゆ」が建設された時に整備された。ここで泳ぐ鯉は約 20 年前に稚魚を放流したものであるそうだ。

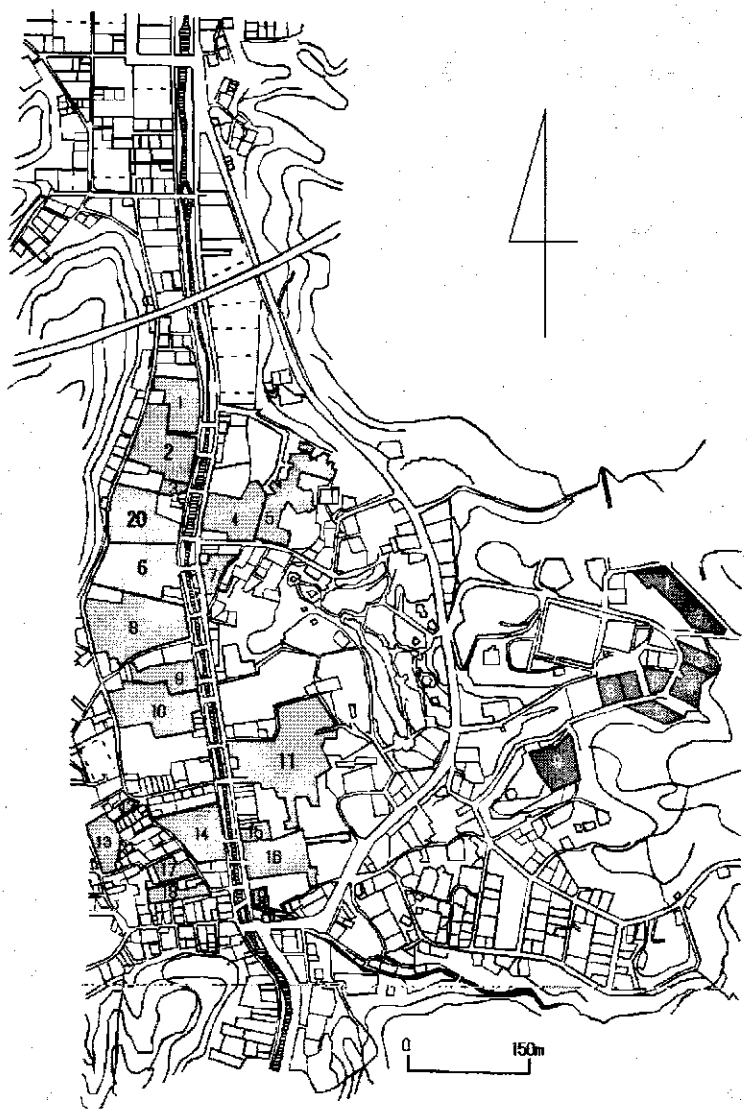
多くの温泉地では旅館がどんどんと増え続け，また別館を作ってバラバラになり中心街が崩壊している。しかし，玉造温泉の旅館はその場で建て増ししているため中心街は昔から変わっていない。そもそも玉造温泉街は，設計してできたものではなく，明治頃から旅館が立ち並びはじめたそうである。後継者がいないためにやむをえず閉館した旅館を除いては，今まで経営不振で閉館したところはない。また，各旅館の仲がよく，協力連絡体制も整っているので，温泉地のモデル地としてよく取り上げられる。例えば，ある旅館に予約がいっぱいになった時に新たな客から予約の連絡が入った場合は，断るのではなく，玉造温泉内の別の旅館を紹介するそうである。これは他では見られない協力性の表れだと思われる。

1991（平成 3）年，ふるさと創生 1 億円を利用して新温泉源の開発に着手した。それまでの泉源は全て民間が所有しているもので，町所有の泉源がなかったことから，皆の意見で掘ることになった。

そして1992（平成4）年，新たな源泉を掘り当てた。その湯の利用は①各旅館へ配水，②外湯（「玉造温泉ゆ～ゆ」）となっている。外湯を造った理由は，知名度を上げて入り込み客を増やすためであったようである。

また，各旅館が出資しあって共同炊事場を作った。各旅館の規模が大きいため，各旅館に炊事場を設置するとその分場所や人が多くいることになる。そのような無駄を省くことが共同炊事場建設の1つめの目的である。もう1つの目的というのは，「各旅館で均質のごはんを出そう！」というものである。これは，ごはんも料理の立派な一品だという意識から生まれたものである。

「玉造温泉ゆ～ゆ」や共同炊事場は，組合等のバックアップのもとで大成功を収めている。



旅館・ホテル

1 玉井別館
2 湯亭こんや
3 旅館友有館
4 白石家
5 ホテル玉泉
6 華仙亭有楽
7 旅館山水
8 佳翠苑皆美
9 湯陣千代の湯
10 松の湯
11 長楽園
12 旅館千鶴荘
13 旅館清風荘
14 保性館
15 玉井館
16 玉造グランドホテル長生閣
17 旅館和仙
18 旅館山の井
19 新寿荘
20 旅館玉静館

ラブホテル（白数字）

1 スウィートむさし
2 ロイヤルホテルむさし
3 ホテルむさし別館
4 ホテルむさし
5 ホテルエデン
6 ホテルむさし新館
7 FINE THE TIME
8 PETIT HOTEL　クックDo・ドゥ・Do
9 ANEX TAMA YOU

第3図　玉造温泉街概観図

(b) 施設・旅館・ホテル

玉造温泉に，1991（平成3）年，玉湯町リゾート計画及び第3次玉湯町総合振興計画によって新泉源が開発された。この新しい温泉源を活用して，公衆浴場を兼ねた多目的施設として1996（平成8）年7月に誕生したのが，「玉造温泉ゆ～ゆ」なのである。出雲・玉造温泉にちなんで「勾玉」をテーマとしたデザインが特徴となっている。また，エントランスホールのガラス屋根に，太陽光発電システムを世界で初めて利用しているのも大きな特徴である。この「玉造温泉ゆ～ゆ」は営業時間10時～23時で朝風呂を営業している日もある。料金は大人600円，小人300円，幼児無料となっている。大浴場・露天風呂・立ち湯・打たせ湯などの温泉を満喫でき，別料金でサウナも利用できる。200インチのスクリーンを備えたコンベンションホール・和風レストラン・会議室も完備している。開放的でゆっくりとくつろげる空間である。

旅館やホテルは歴史があるところが多く，1つ1つが大規模なものとなっている。収容人数30名ほ

どのところもあるが，大半が 100 名以上は宿泊できるようになっており，一番大きいところでは 700 名収容できるようになっている。料金も一番低価格なものでも 12,000 円～で，どの旅館もそれほど料金に差はないようである。宿泊しなくても温泉に入浴できるようにしてある旅館は何件かあるが，ただし宿泊する客とかち合わない時間に限定してある。旅行会社との企画で，宿泊している旅館以外の温泉にもはいることができるというプランもある。

夏場は各旅館内で，ビアガーデン・夜店・スタンプラリー・福引きなど，多種多様なイベントを行っていた。個人客の増加に伴う，幅広い要求に答えていこうという表れであるそうだ。

約 15 件でまかなっていこうとすれば，1 つの旅館の規模が大きくなってしまうのも当然のことかもしれない。たいていの温泉地では，代表する旅館何件かを筆頭にさまざまな旅館があり，客の趣向に合せて選ぶことができる。しかし，玉造温泉の場合はそれぞれが大規模であるため，代表する旅館というものが特にない。よって旅館内に客の要求を次々と取り入れていくこととなった。大きい旅館にはたいてい売店・カラオケルームなどが設置されている。

(c) 組合

玉造温泉旅館組合は，戦前から存在はしていたが，1960 年代ごろに県下ではじめて法人化された。この組合の特色は，非常に若くして組合役員になれることである。そして 30 代の人たちに役職につかせ，年配の役員たちも若い役員たちの指導のもと運営していく。これが昔からの伝統となっているそうである。

5・6 年で役員交代をし，常に新鮮さを保っている。組合のモットーは，地元の人に聞き取りをして意見を反映させていこうということである。また年 2・3 回，「玉造温泉旅館組合だより：輝きの町 21 プロジェクトニュース」という組合通信を旅館で働く人たちにむけて発行している。これは旅館で働く人たちを教育することを目的として作成されており，すでに約 5 年も続いているそうである。内容は玉造での行事や玉造の歴史，また外国人客に対して仕事中に使えそうな一口英会話や，料理のレシピなど情報提供の場となっている。このように玉造温泉で働く人達が皆，共通の情報をしっかり受け取っているため，協力体制が万全に整っているのだと思われる。

V 温泉街の活性化にむけての対策

1) 皆生温泉の場合

(a) 温泉街の活性化事業

温泉街を活気づけていくためには，客に外へ出てもらう必要がある。そこで，温泉街を出歩いてもらうためにイベントを開催している（第 6 表）。2000（平成 12）年は，皆生温泉開湯 100 周年ということで 2001（平成 13）年 3 月までの 1 年間に多彩なイベントが企画された。鳥取県西部の温泉を巡る湯めぐり・観光スポットを廻るスタンプラリー・各旅館が食器などを持ち寄り販売する掘り出し市・海岸遊歩道に飾る手形作りなど，盛りだくさんのイベントが行われた。

第6表　2001年度　皆生温泉キャンペーンイベント

番号	イベント名	開催日時	開催場所	内容
1	皆生温泉海水浴場開設	7月上旬～8月下旬	皆生温泉海水浴場	海辺には、海の家・トイレ・シャワー等が設備され、初日には楽しいイベントを実施。
2	全日本トライアスロン皆生大会	7月29日	皆生温泉発着・鳥取県西部域	水泳・自転車・マラソンを一人で行う過酷なレース。全国でも数少ないロングの大会。
3	ビーチフェスティバルIN皆生	8月26日	皆生海岸	ライフセービング競技を行い、人命救助の技術と知識を身に付けられる大会。
4	ときめきフェスタin皆生温泉	9月1日～1月5日	皆生温泉	温泉中心部をイルミネーションで装飾し、週末にはアマチュアバンドによるコンサート・朝市を実施する。
5	鳥取県西部地震復興コンサート	10月7日	皆生海浜公園	鳥取西部地震の発生から1年が経過するのに合わせ、ジョイントコンサートを実施。
6	大助・花子の健康ウォーキング大会	10月28日	皆生温泉大山一円	宮川大助・花子と一緒に歩く、誰でも気軽に参加できる「健康ウォーキング」を開催。
7	皆生温泉神社年越しイベント	12月31日～1月1日	皆生温泉神社	大晦日の深夜から元旦にかけての年越しカウントダウンイベント。樽酒の鏡割、皆生鉄人鍋・お神酒の振る舞い、福引抽選会、縁起物の販売を行う。

出典）米子市観光協会資料より作成。

また，旅館にはさまざまな設備が整っているため，客は旅館にこもりっぱなしというのが現状である。旅館から設備が減っていくことは考えられない。そのような全てが揃っている旅館から外へ出てもらうためには，旅館の中にはないものを温泉街で売り出していかなければならない。となると，やはり売り出していくべきものは「海」である。その事を意識して，「ときめきフェスタ in 皆生温泉」というイベントの中で，2001（平成13）年9月1日から2002（平成14）年1月5日まで皆生温泉中心部の米子市観光センターから海岸までの四条通りと海岸遊歩道の樹木をイルミネーションで飾り，併せて海岸の砂浜2ヶ所をライトアップすることにした。これによって客に街を歩いてもらい，遊歩道から日本海に輝くイカ釣り船の漁り火を楽しんでもらうことで海を強調していくことを目的としている。

「神社はすたれていくことはない。そのことを利用して皆生温泉神社をもっと活かせていくことはできればいいのだが」と，ヒアリングを行った米子市観光協会の野島氏はおっしゃっていたが，2001（平成14）年12月31日の深夜から2002（平成15）年1月1日にかけて皆生温泉神社にて「皆生温泉神社年越しイベント」を行うことになったようだ。

皆生の北に位置する境港市にある米子空港では，2001（平成14）年の春からソウル便が飛ぶようになった。実際のところ，韓国からの客はほとんどないようだが，まずは街で目に付く「看板」からハングル文字を導入している。

(b) これからの対策

Ⅲの「観光客の動向」で述べたように，現在皆生温泉は団体客中心の経営から個人客向けの経営に変えていこうしている。そのためには個人客のニーズにこたえていかなくてはいけない。例えば，以前のように団体客が多い頃は宴会が定番であったため，旅館の外に食事をしにいくこともなかったが，個人客が多い現在は，外に食事をしにいくことも多いはずである。ところが温泉街には食事ができるところはほとんど存在しない。この例からわかるように個人客の受け入れに温泉街は対応できていない。これは街の活性化の問題にも大いに関連している。街の活性化に向けては，皆生温泉の魅力を作

っていく必要があり，また旅館やホテル等の企業や行政も協力し，魅力作りに努力していかなければならない。いろいろな人に対する受け皿作りと街の活性化が，これから特に取り組んでいかなければならない点である。

その他の対策としては，関東へ売り出すことである。皆生温泉は普通の温泉街とは異なり，温泉街の情緒よりもロケーションの良さが魅力として挙げられる。よって，関東に売り出すには「山陰道開通により，皆生を拠点として広範囲に移動できる」という事を宣伝していく必要があり，皆生温泉だけを売りに出すのではなく，「地域」として売り出していく必要がある。また，関東と米子間を行き来するには飛行機で約1時間10分である事から，「関東から日帰りで訪れてもらうのは可能なのでは」と新たなプランを検討しているようである。

また，温泉街の施設よりも，「食」で勝負しようとしているようだ。皆生は山と海があるため食材も豊富であり，特に「日本海の本物の味を味わってもらいたい」と考えているようだ。この「本物」という言葉の中には「どこの温泉もライバルだ」という意識がある。

食と温泉を売りにしていくことから，老人や女性がターゲットとなりそうである。そして皆生温泉は今一番手軽な情報取得手段であるインターネットで広く紹介・宣伝されていくであろう。

2）玉造温泉の場合

(a) 温泉街の活性化事業

玉造温泉では，客に楽しんでもらえるような，活気のある温泉街づくりにむけて取り組んでいる。川の周りに桜を植えたり，照明をオレンジから白に変えたり，1年間できるイベントを行ったりするようになったのは，その為である。客は旅館にこもりがちであるが，活気ある街づくりをしていくためには，客に外へ出てもらう必要がある。その対策として，「玉造温泉ゆ～ゆ」では毎晩安来節を上演し，2000（平成12）年に玉湯川に足湯を作り，2001（平成13）年5月20日～11月末まで毎週日曜日に「ガイド付早朝散歩歴史めぐり」を行っていた。安来節が上演されるきっかけとなったのは，毎年9月1日～11月30日に催される「JR山陰印象派キャンペーン」で，1996（平成8）年に玉造温泉で安来節を行った事である。それが個人客に人気だった事もあり，安来節の上演を続けていこうという話が出ていたところに，「玉造温泉ゆ～ゆ」が自分のところで毎晩上演していきたいとの要望があった。それ以来，「玉造温泉ゆ～ゆ」では毎晩安来節が上演され，玉造温泉の名物イベントとなっている。2000（平成12）年・2001（平成13）年の夏は，「玉造温泉ゆ～ゆ」にて島根の伝統芸能である石見神楽の上演も行った。島根の伝統を客に鑑賞してもらうことで，情報発信の機能も果たした。「ガイド付き早朝散歩歴史めぐり」は，玉造温泉を滞在型観光地にしていこうという意識のもと行われた企画で，各旅館が協力してガイド役をつくり，毎週日曜日の朝に泉源・古墳・史跡公園などを巡って玉造の魅力を客に紹介していこうというものである。そして以前までは，「玉造温泉ゆ～ゆ」の営業時間が通常午前10時～午後11時であるため，「玉造温泉ゆ～ゆ」を出た後に行くところがないという問題があった。これではせっかく客に街にでてもらっても楽しんでもらえない。ということで，温泉街にある店は午後11時まで店を開けることになり，夜も客に出歩いてもらえるようにした。また，かつては7月終わ

りから夏の間，歌手を呼んだりして玉造温泉まつりを開催していた。しかし 3 年ほど前から 7 月 19 日に湯薬師まつり・七福神まつり，7 月 20 日～8 月 31 日に玉造温泉夏まつりと内容を変えていった。イベントを 1 ヶ月間もの長期間行うことで，客が帰って玉造温泉の良さを話し，それを聞きつけて新たな客が玉造温泉に訪れた時もまだイベントが行われているということが可能になるし，いろいろなイベントを行うことで祭りを運営していく人々にもメリハリをつけることが出来るという利点がある。客が旅館内だけでお土産を購入するのを避けるために，ユニークな商品が多種揃えられていて楽しい買い物ができる，チャレンジショップ 1 号店・2 号店を営業し始め，特産品のめのう・布志名焼や玉造温泉の伝統や歴史を展示した「特産品ギャラリー」も設置した（写真 3)。また，月 1 回無料で，めのう工作教室・布志名焼絵付け教室等の特産品を生かした体験工房を実施している。そして，毎月第 2 日曜日に「玉造温泉のみの市」を開催している（写真 4)。

写真 3　「チャレンジショップ 1 号店 特産品ギャラリー」

（いろいろな催しが企画されている。）

写真 3　「玉造温泉のみの市」の会場

（温泉街の中心ともいえる「玉造温泉ゆ～ゆ」の前で開かれる。）

(b) これからの対策

玉造温泉では，客に街へ出てもらい，温泉街を活気づけていこうという対策が実行されはじめている。これからの対策は，さらに温泉街の活性化を進めていくためのものであると同時に，玉造温泉の在り方に注目したものが多い。さらに個人客の利便性にも注目している。まず，駐車場やチャレンジショップや温泉街の通りの整備についての問題が挙げられる。昔は「部屋数＝駐車場に置くことが可能な車の台数」で間に合っていたが，個人客が増えた現在では「収容人数＝駐車場に置くことが可能な車の台数」としなければ対応できなくなっている。しかし，今は地価が上がっていて近くに土地を購入できない。これから先，ますます個人客が増えると予想されるだけに駐車場をどのように用意するかが問題となっている。そして客に楽しんでもらえるために通りをどのように整備していくかが重要である。土産物屋に置いてある商品は，どこの売店にも置いてある物が多く独自性がない。そこで今後はチャレンジショップのようなオリジナリティのある店を増やしていきたいと考えているようである。そして，通りを歩行者天国にしたり一方通行にすることで，より客にとって出歩きやすい通りにしようと考えているようである。また，早い時間に到着した客や朝の出発の遅い客をどう楽しませるか，というような受け入れ態勢を考えているようである。次に，玉造温泉の在り方については「玉

造温泉は観光地ではなく宿泊地なのだ」ということを自覚し，これからも周りの松江や出雲と仲良くしていく必要性を挙げている。また，山陰においてもっと西に何かができたとしたら，玉造は通り過ぎられてしまうのではないかという不安からも，常に情報発信地となって周りと仲良くし，宿泊地としての玉造温泉の位置を安定させるように努めていこうとしている。米子空港にソウル便が導入されたことによる韓国からの客への対策は，ハングル文字を用いた簡単な玉造温泉のパンフを見かけたりもしたが，特には行っていないようである。「鳥取もソウル便を引っ張ることだけを考えて，受け入れ態勢ができていない。受け入れていくためには，看板等だけではなく，まずは一番大切な『気持ち』をもたなければならない」と，ヒアリングを行った玉造温泉旅館共同組合理事長は話しておられた。Ⅲの「観光客の動向」で関東への対策を紹介したように，これからも関東からの客を呼び込もうとしている。島根に対する不便・高い・遠いというイメージを取り除いていきたいと考えているようである。

Ⅵ おわりに

今回調査をしてみて筆者にとって一番興味深かったことは，皆生温泉と玉造温泉では明確な違いが表れていることである。皆生温泉がこれから行っていこうとしている対策は，もうすでに玉造温泉で実行されていることであり，玉造温泉はもっと先を見据えた目標をもって実行しようとしている。このような違いはどこからくるのであろうか。それは皆生温泉がまだ出来て100年しかたっていない新しい温泉地であり，しかも旅館の建ち変わりが激しく，旅館同士がそれぞれライバルであると考えている。その一方で，玉造温泉は歴史のある温泉地で，昔から同じ旅館がある，つまり旅館同士仲がよく協力体制が整えられているためではないだろうか。それぞれの温泉地の特色は，温泉街に表れているだけでなく，考え方にも表れていて，大変おもしろく思っている。また，ツアー等の団体旅行から個人旅行へと旅行形態が変化していっていることで，同じように温泉街も変化していることがわかった。現在客の趣向に合わせて多種多様なレジャー施設が次々と生まれてきている。客の娯楽に対する欲は尽きることがない。「温泉地」という名だけでは客を魅了することができなくなっているのが現状であるように思われる。客から次々と出てくる要求に応えながらも，昔から培ってきたその温泉地独自のものを守っていかなければならない。それはかなりの難問であるように思う。しかしこの難問に対してしっかりと取り組んでいる温泉地は今後生き残っていくことができ，一方客の要求だけに捕らわれている温泉地は数多くある温泉地の一つとして姿を消していくのではないかと思う。移り変わりの激しい客の趣向によって，温泉地だけではなく観光も常に変化しているのを知った。そのことで観光における新たな面を見出すことができ，さらに観光に対する興味も深まったように思う。これからも常に変化しつづける客の要求に対して，温泉地が，また観光そのものが，どのように変化していくのかが大変楽しみである。

《付記》

皆生温泉湯喜望白扇支配人福本一宇氏，米子市観光協会野島譲氏，玉湯町役場観光・産業課村尾勝氏，華仙亭有楽代表取締役社長井山博昭氏，玉造温泉旅館共同組合理事長松崎滋氏，協力して下さったたくさんの方々に深く御礼申し上げます。

文献・資料

周知社（2000）：『マップルマガジン山陰』昭文社.

徳久 球雄（1988）：日本における温泉観光地再開発への指向性—2—. 青山経営論集，**23**，pp.135-164.

加藤 義成　校注（1998）：『出雲国風土記』報光社，pp.12-13.

皆生温泉旅館組合（2001）：山陰・米子皆生温泉. http://www.kaike-onsen.com/index.htm

おーゆランド・ホテル（2001）：おーゆランド・ホテル.　http://www.ou-kaike.co.jp

皆生・日帰り温泉オーシャン（2001）：皆生・日帰り温泉オーシャン.http://www2.sanmedia.or.jp/ocean/onsen.htm

ホテル清風荘（2001）：www 温泉倶楽部. http://www.onsen-club.jp.

松月（2001）：コンテンツ—海色・湯の宿“松月”. http://shogetsu.co.jp/info.htm/

山陰中央新報（2001）：ズームアップさんいん.　http://www-sanin-chuo.co.jp/tokushu/zoomup/2001/0026.html

玉造温泉協同組合（2001）：玉造温泉組合. http://ww2.crosstalk.or.jp/onsen/

玉湯町（2001）：玉湯町ホームページ. http://www.w-b-sanin.co.jp/local/tamayu/

玉湯町商工会（2001）：玉湯町商工会. http://www.joho-shimane.or.jp/shokokai/tamashou/